

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200308		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイクラブ		
所在地	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷58		
自己評価作成日	令和5年7月12日	評価結果市町村受理日	令和5年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274200308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274200308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年	8月	7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が、毎日、安心して楽しく過ごせる為のお手伝いには、手を抜きません。月に1度は、何かのイベントを開催し、楽しい時間を過ごしております。日々の生活の中にも、毎日、体操や歌、クイズなどを取り入れ、利用者様の笑顔を絶やさめよう、スタッフ一丸となっております。また、テラスの畑では、季節ごとに、様々な野菜が収穫でき、メニューと一緒に考えたり、お料理を楽しめる時間も作っています。どんな時も利用者様本位を基本に思いに寄り添い、温かい関係が築けていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広いウッドデッキがありバーベキューや流しそうめんをしたり、お茶を飲んだり活用している。アンケートから家族の評価が高く、頼りにされている様子が伺える。また、職員会議では、現状と目標をふまえ、徹底した話し合いで「利用者の笑顔をふやしたい。」という思いでできることを模索し、運営している。管理者はこまめに職員に声かけをしたり、意見を聞いたりしているため、信頼され、慕われている。近所の野菜作りボランティアが頻繁に来所して、ミカンやゆず等の差し入れをしてくれたり、運営推進会議やイベントにも参加している。入浴や散歩では1対1の場面を作り、利用者の思いを聞くようにしたり、デイサービスとの交流や車の使用など複合施設の良さを活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし 利用者様に寄り添い、近づけるように努めている	事業を再開する時に職員で話し合っって理念を決めた。理念は目につく所に掲げ、職員は理念に基づいた個人目標があり、1年に1回振り返り、評価と見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周り、近隣の草刈りを行ったり、挨拶程度の訪問をしている	自治会に加入し、回覧板で施設のお便りを回覧し、地域の行事や情報を得ている。地域の方よりミカンやゆず等の差し入れもあり、昨年の水害時には、事業所は地域の方に飲料水の提供と入浴施設の開放を行い、地域との関係性を更に深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時や、ご挨拶に伺った時など、認知症について、お話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月までは書面で行っていたが、6月より通常開催にて実施した	開所以来書面開催だったが6月に始めて対面開催を行い、当日は会議終了後昼食を提供した。休日開催で行政や地域包括支援センター職員の参加が得られなかったため、今後は開催曜日を検討する。議事録は家族に郵送し、職員には会議で報告している。	議事録の近況報告は、項目を再検討し事業所の現状がわかるように、更に会議内容は欠席した人に伝わるような記述を希望します。地域ボランティアの参加を得られていて今後、自治会長の参加も得られるよう働きかけに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状を書面で報告し、協力関係を築けるよう努めている	介護保険や運営に関しての疑問点は電話で担当者へ問い合わせをし、入居に関しては地域包括支援センターから問い合わせがある。生活保護者の担当との意見交換も定期的に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象になる行為を理解し、他のアイデアで事故を防ぎ、安全を保てるか等、研修を行っている 玄関の施錠なしで安全を確保できるよう、鈴を付けたり、利用者様の状態をみながら、施錠の時間を減らしている	指針、マニュアルは整備されている。職員は年に2回行われる研修を通して内容の理解を深め、利用者のケース検討も行っている。委員会は管理者会議のあとの職員会議で職員全員で3か月に1度行われている。	

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どうい事が虐待か？どうして起こるのか？などスタッフ会議で話し合う時間を設けている 気持ちに余裕をもって勤務につけるようスタッフと何でも話そう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強中だが、まだ不十分である 必要な時は、専門家に聞きながら進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明しているが、質問や不安があれば その都度、時間を作り対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望はスタッフ間で話し合い、出来る限り運営に反映させている 月のお便り、報告書、手紙、電話で、知らせている	コロナ禍では家族に頻繁に電話をかけ、要望を聞けるように心がけ、毎月のおたよりの他に3か月に1度、利用者の写真を個別に30枚ほど送り、家族に好評であった。絵手紙を送る支援を行い、面会の時には話を聞き、要望を職員会議で検討し実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で、十分、話し合いを行い、方向性を決めるようにしている アイデアを出し合い、実行後のモニタリングを行っている	行事や運営に関して、職員で話し合っ決めて決めている。欠席した職員とは申し送りノートで情報を共有している。毎月の職員会議では「利用者の笑顔を増やしたい。」という思いに向かって職員が意見を出し合い、方向性を決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ち良く働けるよう、環境づくりに努めている 自覚と意識の大切さを伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	声掛けや技術に優れているスタッフが付き添い教育をしている また、ランクアップ試験に向けて、実践で学習している		

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りを大切にし、サービスの質を向上させるよう交流している 良いなと思うアイデアは、実践できるよう取り組みをしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で、ご本人と話す時間を十分作っている 入所後は、出来る限り、密に対応するよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況をしっかり確認し、不安や心配事を解決できるよう、コミュニケーションを深めている 施設の対応の仕方をオープンに伝え、理解して頂く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向、ADLを考慮し、必要に応じ、他のサービス利用も出来るよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野や、出来る事を見つけて、気持ち良く、楽しく過ごせるよう努めている 教えてもらう事も多く、場面によっては支えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に利用者様を支える関係を築けるよう小さな事でも、連絡・報告・相談を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に訪問出来るよう、明るく、楽しい雰囲気作りをしている コロナが緩和してきたが、条件付きにて、面会を行っている	面会は24時間可能とし、コロナ禍でもガラス越しなど工夫して面会を継続した。デイサービスとの交流も行い、施設内にスナップ写真を多く飾り、家族等との会話の話題作りを提供し、関係性の継続に努めている。	

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとりやすい話題を提供したり相性の良い悪いも把握している 興味を引きそうな、レクの提供にも取り組んでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や支援が必要に応じて可能な体制を作っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の考えや、希望を探り出す努力をしている 問題がある時は、スタッフ会議で検討している	利用者の誕生日に利用者の希望を聞いて、買い物や食事、映画鑑賞などを行い、利用者の満足そうな表情が写真に収められていた。毎日の申し送りを丁寧に行い、利用者の変化や意向を見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを参考にサービスの方向性を考えている スタッフ会議で、カンファレンスとして話し合える時間を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテ、申し送りノート、業務日誌、往診記録で把握し共有している カンファレンスで、確認を兼ね、共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画を作り、それにそったサービスを提案していく 細かい部分まで、ケアマネと相談している	職員は利用者の日常の様子や変化を業務日誌に細かく記入し、全職員で情報を共有している。モニタリングは定期的にケアマネジャーが行い、カンファレンスは最長3か月ごと、変化があれば随時行っている。職員会議にケアマネジャーが参加し意見交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、申し送りという形で、変化点があれば情報が引き継がれていっている 特に個別記録は、その日、どのように過ごしたかが良くわかるように書いている		

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書を利用者様のご家族に説明する際に新たなニーズがあれば対応していく 難問でも、出来る方法を考えてみる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、不十分だったが、取り組みを始めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、訪問医が往診に来る 言いたいことを直接話し、納得して解決している	利用者全員が定期的に協力医の訪問診療を受けている。利用者の体調不良時には24時間オンコールで相談ができる。また、併設のデイサービス、有料老人ホームには看護師が常駐しているため、利用者の体調について相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないが、訪問診療の看護師と連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係の訪問は控えているが、相談員とは電話で情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期に関しては、ご家族と話し合い、説明も行っている 介護職も、そのスキルを持つが、研修の場をもっと作っていききたい	入居時に重度化、終末期の対応について事業所の方針を説明し、同意書を得ている。重度化した時には、同意書の再確認、医師の判断で適切に対応している。職員は看取りの経験はあり、今後に備えて看取り研修の場を設ける予定を立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長が24時間オンコール対応をしている サニーマディカルと24時間連携がとれるようになっている 事故対応の研修も行っている		

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、身につけているが地域との協力体制が、まだ不十分である 防災訓練は定期的に行っている	年に2回火災、地震想定、日中夜間で避難訓練を行っている。防災委員を設置し、その人を中心にマニュアルの検討や防災訓練の計画反省、備蓄の管理を行い、リストを作成し、災害時に備えている。	訓練は前回の反省を活かして計画実践できるよう期待します。停電の際の対応策を考え、準備を行い、地域との交流を通して災害時の協力体制を築けるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊敬し、思いやりのある声掛け、対応をしている 自分が言われて嫌な事、されて嫌な事は絶対しない	職員は落ち着いた思いやりのある言動で、利用者へ接し、声掛けしている様子が伺えた。人格を尊重した日常生活での支援を心掛け、ヒアリングでも「利用者の笑顔をたくさん見たいという気持ちで職員全員が利用者へ接している」という声が職員から聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを伝えられるよう、話をする時間を大切にしている 特に入浴時は、1対1なので、本音を聞けるチャンスである		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、最優先を意識し、個人のペースで過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を付けている 特に女性の利用者様とは一緒に着る服を選ぶ楽しみもある 化粧や、マニキュアを楽しむ事もある 2か月に1回、ヘアカットをしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立と一緒に考えたり、調理を手伝ってもらっている 食器拭きは、争うように行って下さる	現在、夕食は副食のみ食材業者の献立を利用し、朝、昼食は職員が手作りしている。利用者には献立の相談をしたり、調理や後片付けを手伝ってもらっている。誕生会、クリスマス会、バーベキュー、流しそうめん、外食等季節に合ったお楽しみ食を取り入れ、食の楽しみを増やす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、記録し把握している 栄養バランスを考え、量や形態を個人に合わせている		

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けをして、見守りや、介助が必要な方に合わせて行っている 訪問歯科による、口腔内のチェックや口腔ケアの指導を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて排泄パターンを把握し、失敗する前にトイレ誘導を行えるよう努めている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレへ案内している。自立の方へも時々声かけ支援をしている。トイレでの排泄を強く希望されている利用者の夜間の排泄には、職員間で話し合い、試行錯誤をして利用者の意向に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く料理に取り入れ、午前・午後、運動する時間を作っている 水分を多く摂って頂けるよう、声掛けや雰囲気にも気配りしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お話ししたり、歌をうたったりリフレッシュのような楽しい雰囲気を作っている 変わり風呂の入浴剤・ミカン風呂なども人気がある	週2回、午前中に入浴支援を行い、会話や歌を歌ったり利用者にとって楽しみにしているので、入浴を嫌がる利用者はいない。季節には、入浴剤の他、近所からの差し入れのミカン風呂、ゆず風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせて休んでもらっている 特に夜間は安心して眠れるよう、声のトーン・対応にも注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を共有し周知している 薬の変更も確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味もてる事を探り、提供している その方に合った役割を居室担当を中心に考え実施している		

静岡県(グループホームジョイクラブ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外食・散歩・ドライブ等、出掛ける機会を多く作っている 誕生日には、本人の希望を叶え、ショッピング・外食・映画等にも出掛ける	普段は施設の近くを職員と1対1で15分程度散歩したり、ウッドデッキで外気浴をしている。誕生月には、利用者の希望を聞き、職員と2人で買い物や映画、外食等に出掛け、コロナ禍でも車中ドライブで人出の少ない所に出かけ、外出支援を継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は預り金という形で、施設で行っているが、希望な物を一緒に買いに行ったり、可能な限り自分で支払いができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも出来るよう支援している 毎日、携帯でお話する利用者様もいる 定期的に利用者様に書いて頂いた手紙に日常の写真を添えてご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に、季節を感じられる飾りつけをしたり、思い出の写真を展示している 畑では季節ごとの野菜が収穫でき、テラスではバーベキューや流しそうめんを楽しんでいる 整頓や掃除は細目に行い清潔を保っている	居間、廊下には日常イベント時の利用者の写真が掲示され、写真を見て思い出話をしている。広いウッドデッキでお茶を飲んだり、バーベキュー、流しそうめんを楽しんでいる。感染予防のため、手すりや利用者が頻繁に触れる所は1日2回消毒し、換気もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテラスの椅子で、一人くつろいだり、気の合った方と過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参してもらい、家具の配置をご家族や利用者様と相談して行っている	居室には洗面台やクローゼットは2カ所あるので、布団、衣類が収納ができ、清潔に保たれている。家から持参した収納タンス、テレビが動線を妨げないように配置してある。姿見を置き、身支度をチェックされる利用者もいる。洗面台には歯ブラシ、手洗い石けん、手指消毒ボトルも置いてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と思われる障害物を排除したり、使いやすい導線に気を配り、安全で出来るだけ、自立した生活が送れるよう支援している		